

大豆新品種「鈴の音」の特性

高橋 浩司・湯本 節三・中村 茂樹

(東北農業試験場)

Characteristics of A New Soybean Variety 'Suzunone'

Koji TAKAHASHI, Setsuzo YUMOTO and Shigeki NAKAMURA

(Tohoku National Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

東北地方における大豆の作付面積は水田転作緩和により減少しているが、大豆作振興のためにはコンバインによる省力化を図ることができ、かつ、より高い収益性が期待できる品種の導入が必要である。これまで収益性が高い納豆用品種としては「コスズ」があるが、東北北部地域では成熟期が遅く、また、草丈が高く倒伏しやすいため機械収穫には不適であった。「鈴の音」はこれらが改善された品種で、1995年に農林水産省の新品種に登録されるとともに、岩手県で奨励品種に採用され、今後の普及が期待される。

2 育成経過

1983年に納豆用の小粒品種の育成を主目標として、ダイズシストセンチュウ抵抗性が強い「刈系244号」を母、納豆小粒に⁶⁰Coを照射して得られた早生系統の「刈系221号」

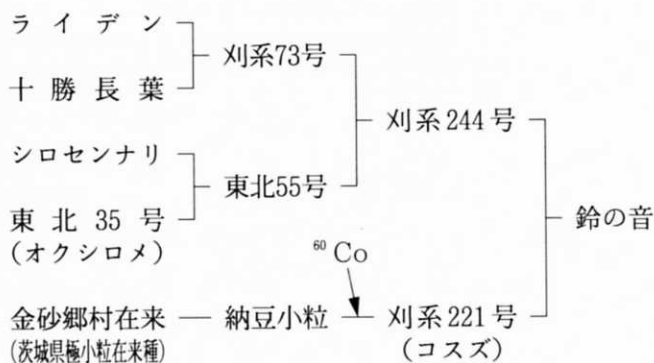


図1 「鈴の音」の系譜

(後の「コスズ」)を父として人工交配を行い、以後、F₂及びF₃を集団選抜、F₄以降を系統選抜で進め、固定を図ってきた。1991年に「刈系449号」の系統名で生産力検定予備試験、系統適応性検定試験及び特性検定試験等に供試し、成績が良好であったため、1992年に「東北115号」の地方番号を付して生産力検定試験及び奨励品種決定試験等に供試した。

3 特性の概要

育成地における普通畑及び転換畑での生産力検定試験の結果を表1に示した。以下、普通畑での結果を中心に特性をみる。

成熟期は9月27日で、「ワセシロゲ」とほぼ同じであり、「コスズ」に比べると2週間程度早い早生の晩に属する。

主茎長、主茎節数及び分枝数は87cm、16.8節及び4.8本であり、いずれも「コスズ」より小さく、中に分類される。莢数は80.4莢で、「コスズ」より4割程度少なかった。

a当たりの収量は普通畑で21.9kg、転換畑で26.9kgで、「コスズ」並である。

百粒重は9.9gで、「コスズ」の9.3gよりわずかに大きい極小粒である。

倒伏程度は2.7で、「コスズ」の4.3よりも小さく、耐倒伏性は大幅に改善されている。

ダイズモザイク病抵抗性は中、ダイズシストセンチュウ抵抗性は弱、紫斑病抵抗性及び立枯性病害抵抗性は中である。

子実成分は「コスズ」並で粗蛋白質が中、粗脂肪が中で、

表1 育成地における生育、収量及び品質調査¹⁾

系 統 名	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	主茎 節数	分枝数 (本/個体)	莢 数 (莢/個体)	倒伏程度 ²⁾	収 量 (kg/a)	百粒重 (g)	障害粒程度 ²⁾			品質 ³⁾
									紫斑	褐斑	裂皮	
普通畑												
鈴の音	9.27	87	16.8	4.8	80.4	2.7	21.9	9.9	1.3	0.3	0.0	3.0
コスズ	10.14	101	19.1	8.0	146.0	4.3	23.1	9.3	1.0	0.3	0.0	3.0
ワセシロゲ	9.27	97	15.7	3.9	36.8	2.7	20.2	25.4	1.7	0.0	0.0	4.3
転換畑												
鈴の音	10. 2	82	16.2	5.6	91.5	3.0	26.9	9.7	0.3	0.7	0.0	3.7
コスズ	10.17	96	18.1	7.6	141.2	4.3	25.5	8.9	0.3	0.7	0.7	3.0
ワセシロゲ	10. 1	92	15.5	4.2	46.6	3.3	26.2	23.5	0.7	0.7	1.0	4.3

注. 1) 1992~1994年の生産力検定試験の平均値で示した。

2) 無(0)~甚(5)の評価による。

3) 上上(1)~下(7)の評価による。

納豆加工適性は優れる。

次に、機械化適性に関わる形質調査では、倒伏はいずれの圃場でも「コスズ」より少なく、最下着莢位置も高くなっ

表2 機械化適性に関わる調査(育成地)

品種名	倒 伏 程 度			最 下 着莢位置 (cm)	成熟後の 裂莢程度
	普通畑	転換畑	晩播		
鈴の音	少	中	無	21.4	中
コスズ	多	多	中	16.7	中
ワセシロゲ	中	中	微	—	—

- 注. 1) 子葉節より最下着莢節位までの高さ。
 2) 収穫適期後約1カ月間圃場に立毛のまま放置したときの裂莢性程度で、無(0%), 微(1~5%), 少(6~10%), 中(11~20%), 多(21%~)の評価による。

ており、また、裂莢性が「コスズ」並の中であることから、コンバイン収穫に適している(表2)。

4 ま と め

「鈴の音」は同じ極小粒品種の「コスズ」に比べると粒大はやや大きい、成熟期は早生の晩に属し、また、耐倒伏性が向上している。したがって、東北北部地域では「コスズ」の生育不安定による問題点が解決でき、また、コンバイン収穫が容易になり省力化が図られる。さらに、納豆用品種であることから高い収益性も期待できる。

栽培適地は東北中部及び北部地域である。栽培上の留意点としては、センチュウ発生圃場への作付けは避け、適正な輪作のもとでの栽培を行う。また、ウイルス病の多発地帯ではアブラムシの防除に努めることが上げられる。